

1. 社会・治安情勢

(1) ホンジュラス政府は、悪化の一途を辿る治安の改善に向け、国軍を投入する等の治安対策を実施しているが、現在まで明確な成果は出ておらず、他方で、今年は大統領選挙が実施されることから、政治的な混乱も予想され、今後効果的な治安対策が実施されるか不透明な状況にある。また、各種経済指標も厳しい状態が続いている等、さらなる治安悪化の懸念材料も多い。

(2) 2012年中の殺人事件数は7,172件（前年比68件増加）、人口10万人あたりの殺人発生率は85.5（前年比で微減）を記録する等、世界最悪レベルで殺人事件が発生しており、誘拐も急増する等、依然として厳しい治安情勢が続いている状況であることから、今後も当地の治安情勢には注意を要する（統計数値はホンジュラス暴力犯罪研究所のもの）。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 依然として犯罪組織間の抗争とみられる殺人及び怨恨が原因とみられる請負殺人が多発している他、商業施設等の駐車場における短時間誘拐や路上において現金及び携帯電話等を狙った強盗殺人事件も多発しており、これらの犯行の殆どに銃器が使用されている。中でも銀行等にて現金を引き出した者を車両等で尾行し、銃器等で脅して現金を奪い取る強盗事件も散発しており、同種事件は邦人も被害者となる可能性が十分にあることから特に注意を要する。

(2) 邦人被害事案

在留邦人がテグシガルパ市内の大型商業施設（カスカーダス・モール）付近を自家用車で走行中、熱狂的サッカーサポーター（ウルトラ・フィエル）数十名が路上で暴れている現場に遭遇し、付近では銃撃戦も発生し死者が出たが、同邦人は現場から脱出したため被害はなかった。

(3) 邦人以外の被害事案

ア 1月下旬、テグシガルパ市内の国立教育大学前にて、自家用車を運転中の男性がオートバイで近づいてきた男らに銃撃され死亡した。

イ 2月上旬、テグシガルパ市内（商業施設や金融機関が多く所在するミラフローレス地区）にて、男性がオートバイで近づいてきた男らに銃撃され死亡した。

ウ 2月中旬、テグシガルパ市内の飲食店（トンコンティン国際空港付近）に約10名の武装した男らが押し入り、店内にいた客3名を射殺し、店の従業員も負傷した。

エ 3月上旬、テグシガルパ市内の洗車場前（飲食店等が立ち並ぶフランシスコ・モラサン通り沿い）にて、警備員男性が何者かに銃撃され死亡した。

3. テロ・爆弾事件発生状況

日本人被害は無く、また発生も無し。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人被害は無し。

5. 日本企業の安全に関する諸問題

(1) ホンジュラスの対日感情は良好であることから、日系企業を対象としたテロの可能性は低いとみられるものの、強盗等の一般犯罪は深刻な状況にあることから、同種犯罪に対する防犯対策の強化が必要である。

(2) 1月31日付で当地の一部地域に対する渡航情報が「十分注意」から「渡航の是非を検討」に引き上げられており（外務省 HP 渡航情報参照）、該当地域における業務予定がある場合は、これまで以上に安全対策の強化及び現地治安情報の収集を行うことを勧める。